

平成26年1-3月期の四半期別GDP速報の概要

経済社会総合研究所国民経済計算部国民支出課

箱田 麻衣

5月15日に公表した平成26年1-3月期四半期別GDP速報(1次速報)では、実質GDP成長率は+1.5%(年率+5.9%)、名目GDP成長率は+1.2%(年率+5.1%)と、実質成長率、名目成長率ともに6四半期連続のプラスとなった。実質GDP成長率に対する内外需別の寄与度を見ると、外需は▲0.3%とマイナスとなった一方、内需が1.7%とプラスとなった。内需のプラス寄与は6四半期連続、外需のマイナス寄与は3四半期連続となった。

以下では今回速報の概要について解説する。詳細は国民経済計算のウェブサイトをご覧願いたい。

(http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/sokuhou/sokuhou_top.html)。

なお、以下の計数は、特段の断りがない限り、実質値の季節調整済前期比、カッコ内は実質GDP成長率への寄与度を示す。

1. 民間需要の動向

民間最終消費支出は+2.1%(+1.3%)と、6四半期連続の増加となった。自動車、家電製品、パソコン等の耐久財や日用品等が増加に寄与したとみられる。消費税率引上げ前の駆け込み需要が増加の背景にあるとみられる。

民間住宅は+3.1%(+0.1%)と8四半期連続の増加となった。進捗ベースでの増加が続いている一方、新設住宅着工戸数・工事費予定額は減少に転じている。

民間企業設備は+4.9%(+0.7%)と4四半期連続の増加となった。供給側推計の基礎となる総固定資本形成の動きを見ると、産業機械や、パソコン等の電子・通信機器などへの支出が増加に寄与したとみられる。

民間在庫品増加(寄与度)は▲0.2%とマイナス寄与となった。流通在庫や製品在庫がマイナスに寄与したとみられる。なお、1次速報値では補外推計となる仕掛品在庫及び原材料在庫については、概ね横ばいの動きであった。

2. 公的需要の動向

政府最終消費支出は+0.1%(+0.0%)と、7四半期連続の増加となった。医療費及び介護費(現物社会給付)の増加が傾向的に続いている。

公的固定資本形成は▲2.4%(▲0.1%)と5四半期ぶりの減少となった。

公的在庫品増加(寄与度)は+0.0%と、横ばいであった。

3. 輸出入の動向

財貨・サービスの輸出は+6.0%(+1.0%)と、2四半期連続の増加となった。自動車や集積回路等の電子・通信機器、半導体製造装置等の特殊産業機械などが増加に寄与したとみられる。財貨・サービスの輸入は+6.3%(▲1.3%)と、5四半期連続の増加となった。原油・天然ガス、携帯電話機やパソコン等の電子・通信機器などが増加に寄与したとみられる。

4. デフレーター動向

GDPデフレーター(季節調整済前期比)は▲0.2%と2四半期ぶりの下落となった。国内需要デフレーターは前期比+0.1%であったものの、外需デフレーターがマイナスに寄与した。また、GDPデフレーター(前年同期比)は+0.0%と横ばいとなった。マイナスでないのは2009年7-9月期以来18四半期ぶりである。

5. GNI(国民総所得)の動向

GNIは実質+0.7%(年率+2.6%)、名目が+0.9%(年率+3.7%)と、ともに増加となった。海外からの純所得と交易利得がともにマイナス寄与となり、GDP成長率よりも低い成長率となった。

なお、平成26年1-3月期2次速報の公表は、6月9日(月)を予定している。

箱田 麻衣(はこだ まい)